慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	自動車産業の部品リサイクルと企業の経営戦略–日・米・独の自動車メーカーの国際比較–
Sub Title	
Author	田村充(Tamura, Mitsuru) 藤枝省人
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1997
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1997年度経営学 第1355号 可能
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001997-1355

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

No. 1355

学生氏名　田村　充

主査 藤枝　省人
副査 古川　公成
小野桂之介

所属　藤枝　省人　研究室

自動車産業の部品リサイクルと企業の経営戦略
—日・米・独の自動車メーカーの国際比較—

本論文の研究は、環境問題や企業の社会的責任が問われる中、廃車からの産業廃棄物減少の為に自動車産業がどのような取り組みを行っているかという問題意識に基づいている。

研究を進める上で具体的事例として、廃車から発生する産業廃棄物として問題化しているシュレッダーダストの問題に着目し、車の重量比で75%の金属はほぼリサイクルされている事に対して、残りの25%の樹脂類他がシュレッダーダストとなって産業廃棄物として埋め立てられている事を把握するに到った。

このシュレッダーダストの減少に対して日・米・独の自動車メーカーがどのような取り組みを行っているかを各メーカーの事例を通して説明した。

日・米・独の自動車メーカーのリサイクルに対する環境レポート調査及び、担当者へのインタビューを行い、自動車メーカーのリサイクルに対する取り組みを分析することにより、大手自動車メーカーではリサイクルに対する取り組みが総合的に促進されているという事が明白になった。また、自動車部品のリサイクルを進める事は技術革新であるので、他社への競争優位となり得る事が明らかになった。

この結果に加えて、現時点では廃車からの樹脂類のリサイクル市場が存在し得ない理由として、現在廃車となっている車はリサイクル可能技術が投入される以前の車である事が挙げられる。しかし、近年リサイクルに配慮した車が市場に投入され、廃車となる時点では廃自動車からの樹脂部品リサイクル市場が形成される事が予想される。この事から最後に、自動車業界が一体となって素材の統一化、回収システムを含めた取り組みを行う事が必要になるという提言をまとめた。